

様式 1, 各部門共通

「食材王国みやぎ」 推進優良活動表彰応募・推薦書

1 応募部門 ※応募するいずれかの1つの部門に○をつけてください。

地産地消	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 40px; height: 40px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">                 ブランド化             </div>
------	---

2 活動主体者（自薦者及び被推薦者）の概要

(ふりがな) 活動主体の名称	やまもと いちごのうえん かぶしがいしや 山元いちご農園株式会社
(ふりがな) 代表者の役職・氏名	いわさ たかし 代表取締役 岩佐 隆
(ふりがな) 所在地	〒989-2201 宮城県亘理郡山元町字稲実60番地
連絡先	TEL : 0223-37-4356 FAX : 0223-29-4958 e-mail : info@yamamoto-ichigo.com 担当者氏名 : 鈴木ジョイ (役職 : 事務)
活動主体の組織概要	<p>2011年3月11日の東日本大震災により壊滅的な被害を受けた被災農家3軒が、自立復興を進めるため、いちご栽培を速やかに再開させる必要を感じて立ち上げた株式会社。</p> <p>長年生産してきたいちご農家だからこそできる、いちご本来の新鮮な香りや美味しさを生かしたいちごワインの醸造を自社の六次化センター内「やまもとワイナリー」で行い、ブランド化を推進している。</p> <p>その他いちごの加工品の製造、ハーブの栽培と加工、バームクーヘンの製造・販売を行う。このように農産物の生産・加工に加え、流通ルートの開拓など六次産業化に取り組むことにより、ビジネスモデルの確立をし、魅力ある総合農園を目指す。</p> <p>また、いちご狩りの観光農園の経営を行うだけでなく、農園視察やワイナリー見学を受け入れて交流人口の増加をはかる。併設カフェにて地場産品との連携も濃密に行い、売上の増加につなげる。インターンシップの受け入れ、雇用の創出など担い手の育成。人が集まる「場」を提供するなど、地域活性化に取り組んでいる。</p>

【参考様式】 令和元年度 ブランド化部門 大賞 「山元いちご農園株式会社」

確認事項	<p>※活動内容が表彰の対象となった場合、表彰されるのはどちらか○を付けてください。</p> <p><input type="radio"/> 活動主体組織      <input type="radio"/> 活動主体の代表者（個人）</p>

3 推薦者の概要 省略

様式3, ブランド化部門用

<ブランド化部門活動について>

1 活動の 概要	<p>※取り組んでいる内容を要約してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・震災を経て、いちご農家が復興、六次産業化を実現。「自社ワイナリーにて農園産のいちごを使い、醸造まで一貫して作る」という日本初の試みを行っている。いちご農家だからできる、香料や着色料には頼らない、自然のいちごを感じられるブランドワインの製造・販売を行う。</li> <li>・また魅力ある総合農園の経営を幅広く行い、農業を通じて「ひと」を育て、「しごと」を生み出し「ちいき」を耕す。地域活性化・雇用創出の推進に取り組んでいる。</li> </ul>
2 活動の タイトル	<p>※取り組んでいる活動に「タイトル」を付けてください。</p> <p>いちご農家が作るいちごのワイン ～真実のいちごワイン～</p>
3 活動の 継続期間	<p>※取組や組織の発展過程などを時系列で記載してください。</p> <p>1950年代            いちご栽培の展開</p> <p>2011年            3月    東日本大震災により壊滅的な被害を受ける                       6月    山元いちご農園株式会社設立。構成員4名。                       8月    いちごハウス建設開始</p> <p>2012年            3月    いちごハウス8棟完成                       12月   いちごの出荷開始                       *この年、いちごの生産量は40t</p> <p>2013年            3月    いちご狩り開始                       12月   農園内併設カフェ兼売店「Berry Very Labo」計画開始                       *この年、いちごの生産量は100tまで増加。</p> <p>2014年            2月    「Berry Very Labo」開店                       10月   いちごワインの委託生産開始                       *この年、いちごの生産量が130tに達する。</p> <p>2015年            5月    「六次化センター（含やまもとワイナリー）」および「大型いちごハウス」計画開始                       *この年、いちごの生産量が160tに達する。以後160～170tに安定する。</p> <p>2016年            8月    「六次化センター」完成                       10月   いちごワインの自社醸造開始。醸造スタッフは女性4名。                       12月   いちごワインの完成。常磐線開通に合わせて販売開始。大型いちごハウス完成                       *この年、ワインの販売本数は（非公開）本を超えた。                       *この年、従業員は16名に増加。</p>

	<p>2017年 10月 「夢工房 やまもとバーム」 開店                  *この年、オンラインショップ開設                  *この年、ワインの販売本数は（非公開）本を突破。                  *観光いちご農園の来園者数は約7万7000人</p> <p>2018年 12月 バーム体験開始                  *この年、ワインの販売本数は（非公開）本近くをキープ                  *この年、従業員は30名（パートを含めると45名）に増加。</p>
<p>4                  活動の                  取組形態                  ※別表2から                  該当する取組                  形態を選択し                  てください。</p>	<p>対応できている取組形態</p> <p><b>【ブランド戦略の策定】</b>                  ア. いちご農家のいちごワイン（真実のいちごワイン）。                  自社のいちごを自社醸造しているのは、日本でも山元いちご農園だけ。                  イ. 家族経営から株式会社設立へ。大学との連携</p> <p><b>【売れるものづくりの努力】</b>                  ウ. 震災から自立復興の象徴。魅力ある総合農園のプロデュース。                  エ. 食の安全性。無着色・無香料                  オ. 苺夢（ベリーむ）など復興への夢があり、いちごワインだと瞬時に分かるネーミング。若い女性醸造スタッフ（当初のスタッフ4名は女性）らしいデザイン。「農園産いちご100%」「無着色・無香料」とラベルに表記。</p> <p><b>【販路の確保と商品アピール】</b>                  カ. 六次化センター。農園視察、ワイナリー見学を受け入れる。                  キ. 藤崎デパートおよび各店舗。道の駅、県内スーパー。地元企業との連携。オンラインショップ開設。SNS情報発信。</p> <p><b>【ブランド管理】</b>                  ク. クレーム対応の記録化。                  ケ. 生産（大規模栽培。高設養液栽培、CO2等の統合環境自動制御システム。スマート農業への取組。収穫は、完熟を朝採り手摘みする）、製造（宮城大学、東夢ワイナリー等の技術サポート）、販売（検品制度）。                  コ. 商標取得済                  サ. 厳密な自社チェックによる検品に加え、土壌管理（県に依頼）、生産物の残留農薬等（外部企業）、製品チェック（宮城大学。酵母など）</p> <p><b>【「食材王国みやぎ」の普及・浸透】</b>                  シ. いちご狩り（観光いちご農園。多い時には1日に1500人ものお客様がいちご狩りへ訪れる。（2017年度来園者数：約7万7000人）。地域の生産物をつなぐ役割（カフェで地場産品と地元野菜とともに販売）                  ス. 旬食マルシェのみやぎふるさとプラザ（いちごとワインを池袋にてアンテナショップ出店）。取材（Ohバンデスなど、地元の局や媒体）</p> <p><b>【連携の強化】</b>                  セ. 初期は会議にも積極的に参加していた。今もメールには必ず目を通し、必要に</p>

	<p>応じ、今回のように参加したい。</p> <p>ソ. 生産から販売までを自社で手掛けているため、連携はスムーズ。消費者の声は、オンラインからも届く。自治体に関しても関係は良好で、山元町のブランドと認定され、地元のイベントにも使用されている。</p> <p>その他 タ. ワインバル、仙台セタへの出店など</p>		
5 活動等の 詳細	<p>(1) 活動を始めた契機 (2) 活動の理念 (3) 活動の内容 (4) 活動の成果 (5) 今後の活動の見込み それぞれ、別紙を参照のこと。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>5「活動等の詳細」については、 参考資料を添付して個別に説明</p> </div>		
6 活動のPR ポイント	<p><u>※上記活動等の詳細欄に記載した内容のうち、特にPRしたい点を箇条書きにしてください。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いちご農家がつくる、真実のいちごのワインとは、自社農園栽培の 完熟「山元いちご」を朝採り手摘みして自社ワイナリーで醸造した、安全安心、正直な、贅沢なワインである。</li> <li>・「食材王国みやぎ」の誇る農産物、いちご。その一角を担う「山元いちご」のワインは、こだわりの逸品である。</li> <li>・自立復興の象徴である。</li> <li>・魅力のある総合農園のプロデュース。地域活性化、社会貢献への取り組みの一環である。</li> </ul>		
7 連携して いる団体 等	<p><u>※活動主体と連携して取り組んでいる団体等について記載してください。</u></p> <p>宮城大学 東夢ワイナリー（山梨県）</p>		
8 特記事項	(1) 受賞歴等	<p><u>※当該活動に受賞歴等がある場合には記載してください。</u></p> <p>2018年 「やまほど、やまもと。」認証。(山元町ブランド)</p>	
	(2) メディア 紹介	<p><u>※各種メディアで紹介された実績を記載してください。</u></p> <p>新聞・テレビ・ラジオ・雑誌など多数あり。主なものを別紙に転載する。参照のこと。</p>	
	(3) 活動資金	○	国、県、市町村等の補助事業 事業名：津波・原子力災害被災地域雇用創出 企業立地補助金
	<u>※右記の該当する欄に○をつけてください。</u>		民間団体・企業からの助成
		○	自己資金・その他 ( )

【参考様式】 令和元年度 ブランド化部門 大賞 「山元いちご農園株式会社」

	(4) 実績値	※実績値が明らかでない場合は、数字を記入してください。	非公開情報
--	---------	-----------------------------	-------